

第32回 アジア民族文化学会 秋季大会シンポジウム

# うたの意味は

# どこにあるか



登壇者////

Keiko TEZUKA

**手塚恵子** / 京都学園大学

思想の場としての相互唱  
— 中国壮族の人々のうたの実践より

Rumi UMINO

**海野るみ** / 羽衣国際大学

「歴史は合唱だ」  
— 南アフリカ・グリクワの人々のうたうことと歴史性

コメンテーター////

Gaku KAJIMARU

**梶丸 岳** / 京都市立芸術大学

2016

**11/27** SUN 13:30-

京都学園大学 太秦キャンパス

N202教室

**入場無料**

非学会員・一般の方の参加も歓迎いたします。



主催: アジア民族文化学会



13:30-

## 思想の場としての相互唱 —中国壮族の人々のうたの実践より

手塚恵子(京都学園大学)

中華人民共和国の東南部に暮らすタイ系の民族である壮族は、うたを掛けあう習俗をもつことで知られている。うたの掛け合いは人生儀礼や祭あるいは定期市で、儀礼としてあるいは楽しみのためにうたわれてきた。壮族にとって、うたの掛け合いの華は相手のうたをうまく切り返すことにあるので、相手がかうたい掛けてくる以上、それが自分にとっては未知なものごとであっても、自分なりに咀嚼してうたの言葉として紡いでいかなければならない。壮族の人々はこのようにして自分たちの思考を広げていくのである。このことから、ひとたびうたの掛け合いの回路に乗った思想は、瞬間に人々の間に浸透し、しばしば為政者の恐れるところとなった。

本報告では、フィールドワークによって得られた壮族の掛け合い歌を提示しながら、壮族の事物の認識の方法とその表現のあり方を論じていく。壮族のうたはリアルはフィクションで、フィクションはリアルにうたわれる。うたの意味するものはうたの内側にはなく、うたの外側にあるのである。

14:30-

## 「歴史は合唱だ」 —南アフリカ・グリクワの人々の うたうことと歴史性

海野るみ(羽衣国際大学)

南アフリカで18世紀以降展開されたヨーロッパによる植民活動は、多様な出自の人々からなる共同体を生み出した。グリクワはそうした人々の末裔とされる。なかでもル・フレー一族に率いられる「ル・フレーのグリクワ」の人々は、彼らが「預(予)言者」と呼ぶ初代チーフの遺した予言やエピソードなどを語ったり、そうした予言やエピソードと結びついた賛美歌を合唱したりすることで、いま彼らの目前にある課題に解釈を与える。この実践の総体を、彼らは「歴史 geskiedenis」と呼ぶ。

本報告では、フィールドワークにより得られた賛美歌やそれをうたうことによる「歴史」実践の事例を提示しながら、グリクワの「歴史」概念やその構造を説明する。それを基に、ル・フレーのグリクワの人々にとって、うた(賛美歌)そのものの意味よりも、そのうたにまつわる彼ら自身の「歴史」的状況とそれを声に出す行為が重要であることを明らかにする。



15:30- コメント / 梶丸 岳(京都市立芸術大学)

16:00- ディスカッション

連絡先

アジア民族文化学会事務局  
共立女子短期大学 岡部隆志研究室



〒101-8437 東京都千代田区一ツ橋2-2-1  
TEL/FAX 03-3237-2579  
ウェブサイト <http://www9.plala.or.jp/azimin/>  
メールアドレス [aziminautumn2016@gmail.com](mailto:aziminautumn2016@gmail.com)



京都太秦キャンパスには駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

すべては学生のために。  
**京都学園大学**  
KYOTO GAKUEN UNIVERSITY

京都太秦キャンパス  
〒615-8577 京都市右京区山ノ内五反田町18  
TEL/075-406-7000 (代表)